



浜田まさとし通信

発行所：公明党川崎市議団 発行人：浜田まさとし 川崎区小田7-2-1-214 Tel.333-4512 Fax355-5192
HPアドレス <http://www.m-hamada.com> 印刷所：光明印刷 川崎市幸区塚越4-345

みんなの笑顔が輝く川崎へ！



12月5日、公明党川崎市議団の代表質問で、防災減災対策や30代・40代の就職氷河期世代への就職支援、ハイトスピーチ対策、きれいな街づくり、認知症対策など、30テーマについて市の取り組み強化を求めました。

おくやみコーナーの設置

平成28年に大分県別府市が市役所内に「おくやみコーナー」というワンストップ窓口を設置し、死亡届の提出後に遺族が行う手続きへの支援をスタート。同様の取組みは、神戸市や静岡市など全国に広がっており、静岡市では窓口から窓口へと職員が付き添う「リレー方式」と必要書類に名前や住所などを一括入力できるシステムを導入したことで、2時間かかる手続きが50分で済むようになりました。川崎市も検討すべきと提案しました。

市民文化局長は、「ご遺族に寄り添ったサービスが必要なので、他都市の例を参考に検討を進める」と答えました。

認知症への対応の充実

2025年には65歳以上の5人に1人が認知症になると言われていますが、京都府綾部市では、講習を受けて認知症サポーターとなった人の中から、認知症カフェの運営者や見守り活動をする人を育てていることから、川崎市でも同様の取り組みを求めました。

健康福祉局長は、「令和2年度末までに認知症サポーターを70,480人以上養成することをめざしているが、さらに、地域で認知症の方を支える仕組みを作っていく」と答えました。

観光施設できれいな街づくり

東京都や大阪府、京都市、金沢市、福岡市、北九州市などが観光振興のために自治体独自の宿泊税（外国や市外からの観光宿泊者に一泊100円～200円程度の課税）を実施し、街の清掃・美化を進めていることから、川崎市でも検討をと質問しました。

財政局長は、「先行実施している都市の事例を参考に研究を進める」と答えました。

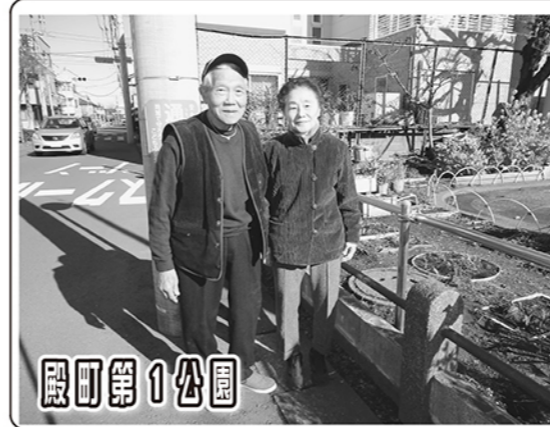
外国籍の小中学生への支援

外国籍の小中学生が増えており、子どもと保護者への日本語教育が必要なケースが見られることから、支援の拡充を求めました。

教育次長は、「78,719人の小中学生のうち外国籍の生徒は1,472人（1.9%）で、日本語指導が必要な方は547人です。在籍数の多い小中学校28校には教員を増やして国際教室を設置し、今年度は、新たに40台の音声翻訳機を導入して保護者とのコミュニケーションが円滑になるようにしましたが、引き続き充実に努める」と答弁しました。



皆さんの声の実現しました！



殿町第1公園

古くなって
いた公園の柵を
更新



大島3丁目

通るとガタガタと音がして
いた側溝と集水口を改修



小田栄公園

ボールを追いかけると
飛び出さないようネット
を設置



浜町4丁目

交通安全のため自転車通行
帯を設置

議会質問で一歩前進！

令和元年7月の質問が実り、振り込め詐欺への対策として、留守番電話設定が有効ですとのお知らせが「高齢者福祉のしおり」に掲載されました。



視察報告

改築中の等々力硬式野球場へ。グラウンドは人工芝となり、内野スタンドは今までの3,000席から5,300席へ、外野の芝生席も1,000席から4,000席へと増える予定。10月のオープンが楽しみです。



浜田昌利議員は、台風19号により市内各地で浸水被害を受けた。



浜田議員

現場発の政策実現へ論戦

川崎市議会 浜田議員

この中で浜田議員は、仙

台市が2016年4月から、止水板の設置費用に

害が起きたことに触れ、建物内への浸水を防ぐ止水板設置に対する補助制度の創設を求めた。

市側は、「近隣の都市の取り組み状況を早急に調査し、必要な対応を検討する」と答えた。

代表質問の内容が令和元年12月23日付けの公明新聞に掲載されました。